

# ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム

## 第 4 回オンライン交流会報告書

作成日：2026/3/5

### 1. オンライン交流会の概要と詳細

#### (ア) 全体概要

日時	令和 8 年 2 月 25 日（水）13:00～15:00
場所	Zoom
参加人数	58 ※参加者人数は最も参加者人数が多かった時間帯であり、交流会等による途中の増減は含まない
参加対象者	ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム会員 ※基本的には会員向けの交流会としておりますが、非会員企業にもご参加いただきました

※ 交流会の目的・背景については[報道発表](#)をご参照ください。

※ 第 3 回オンライン交流会の報告書は[こちら](#)よりご確認ください。

#### (イ) 交流会詳細

本交流会は、拡大版として実施され、はじめに環境省から「優先対象分野における自然関連リスク・機会のロングリスト及びバリューチェーンマップ」と「企業版ふるさと納税を活用した自然共生サイトの支援証明書」の紹介がなされた。続いて、プラットフォーム（以下、「PF」という。）会員によるネイチャーポジティブ（以下、「NP」という。）関連プロジェクトや取組・技術の紹介が行われ、その後 5 名程度の参加者ごとに分かれたグループにて参加者同士の交流が行われた。

各プログラムの詳細およびタイムスケジュールは下表のとおり。

プログラム詳細	時間
① 挨拶（環境省生物多様性主流化室: 細田）	4 分
② 環境省からのお知らせ「PF の使い方」について（環境省生物多様性主流化室: 吉村）	3 分
③ 環境省からのお知らせ「優先対象分野における自然関連リスク・機会のロングリスト及びバリューチェーンマップ」について（合同会社デロイト トーマツ: 愛川）	15 分
④ 環境省からのお知らせ「企業版ふるさと納税を活用した自然共生サイトの支援証明書」について（株式会社 river: 小坪様）	15 分
⑤ 広島県北広島町「もりと暮らす・共生」プロジェクトの説明・質疑応答（一般社団法人広島県鳥獣対策等地域支援機構: 中川様） ■ 鳥獣被害対策を通じた多面的な里山保全のプロジェクト紹介 ■ 地方自治体や学校、企業等が参画する実施基盤の構成や今後の方向性の共有 等	12 分
⑥ サンリット・シードリングス株式会社の NP 事業説明・質疑応答（サンリット・シードリングス株式会社: 石川様） ■ 環境 DNA 分析データ等複数統合することによる生態系可視化の技術紹介 ■ 生態系サービスの定量評価を活用した生物多様性戦略の策定支援内容の共有 等	12 分

<p>⑦ 株式会社 Nature Define の NP 事業説明・質疑応答（株式会社 Nature Define: 湧川様）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビジネスに活用可能なネイチャーポジティブスコア算出モデル技術の紹介</li> <li>■ 青葉組との共同実証にて実施した、該当地域に生息する虫の環境 DNA サンプル収集や音声解析の手法の共有 等</li> </ul>	12 分
⑧ クロストークセッション：連携・協働の可能性について	40 分

## 2. 全体振り返り

### (ア) アンケート結果サマリ

イベント終了後、登壇およびクロストークの有用性、今後関心の高いテーマや交流手法等を把握するため、参加者アンケートを実施した。回答は 24 名（初回参加 8 名、2 回目以降 16 名）であった。主な参加目的は、企業や地域の取組・技術の情報収集、今後の連携や協業のきっかけづくり、会員間の交流・情報交換が中心であり、実例共有やネットワーキング、協業機会の創出に対する期待が確認された（図 1 参照）。

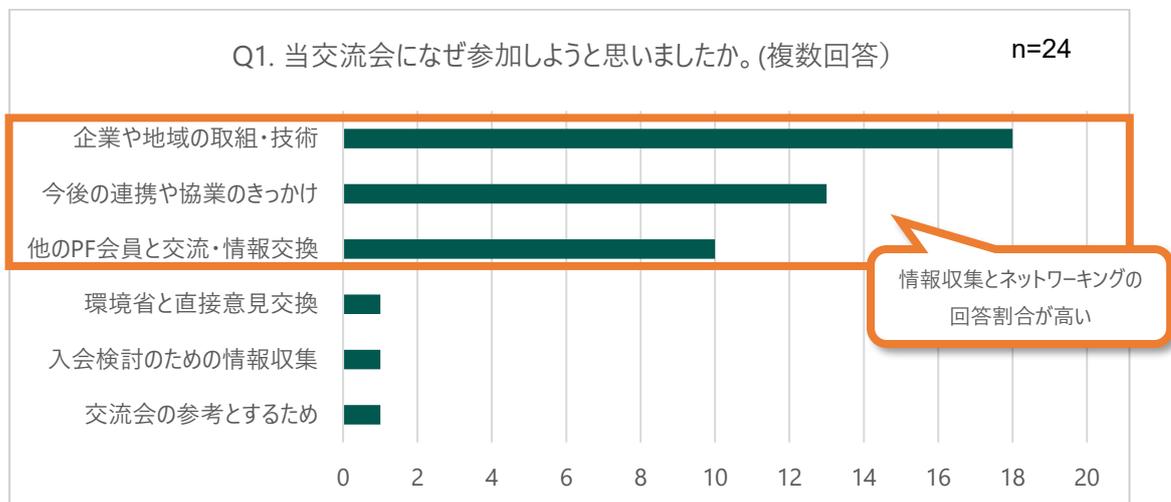


図 1：交流会参加の目的

交流会全体の満足度は、第 1 回～第 3 回と同様に「非常に満足」「満足」が約 8 割を占め、高い満足度を維持した（図 2 参照）。初回・継続参加者間の大きな差は見られず、幅広い参加者層から肯定的な評価が得られている。「NP に関する知見の蓄積に役立った」「NP に取り組む他企業の現場の声を聞いた」「他の事業者とのネットワーキングから自社の NP の方向性が見えてきた」といった声が挙げられ、本イベントが情報収集と他業種交流の場として機能していることが示された。

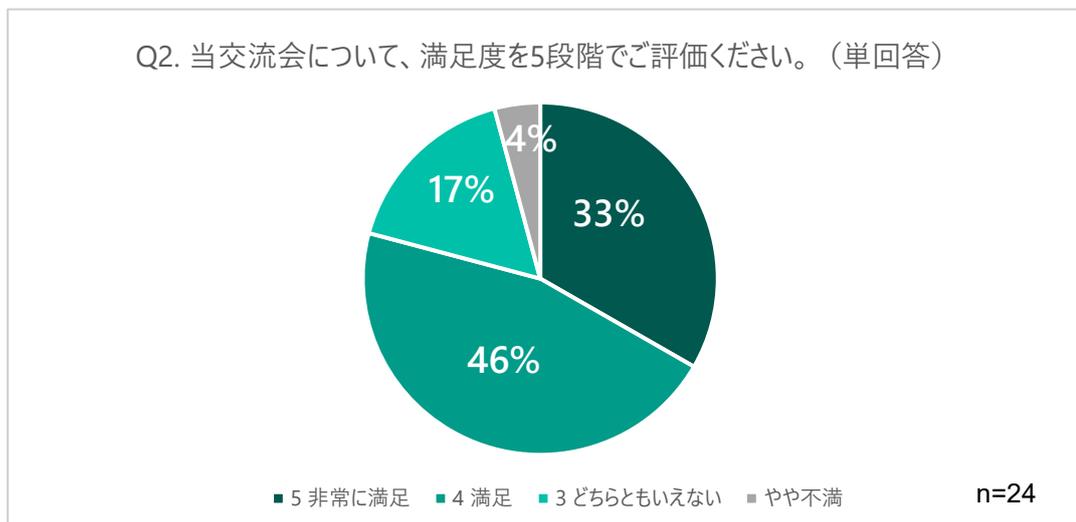


図 2：全体の満足度

プロジェクトオーナーによるプロジェクト紹介および NPE ソリューション・パートナーズ会員企業の事業紹介には約 7 割の参加者が関心を示し、実例に基づく情報共有が有効に機能した。とりわけ初回参加者において関心がやや高い傾向が確認され、「取組の解像度が上がった」「専門的な視点が参考になった」といった前向きな評価が寄せられた。一方で、「脱炭素など関連テーマとのつながりも提示してほしい」との具体的な要望も寄せられた。

クロストークセッションも多くの方に満足いただき、参加者からは「交流の中で新しい知見を得られた」「自治体・企業のニーズを把握できた」との声をいただいた。また、話題提供の充実度に差があり深掘りの余地があったことや、グループ内で多様なビジネススタンスが交差したことなど、今後の改善につながるポイントも示された。連携意向は全体として前向きであり、具体的な連携先を想定できた参加者も存在した。当日の部屋割りや参加者構成、前半で関心を持った企業との後半の接点設計など、マッチング条件やタイミングが成果に影響し得ることが示唆された。次年度以降の連携促進施策のインプットとし、継続的に検討を行う。

#### (イ) クロストークセッションサマリ

今回のクロストークでは、「連携・協働の可能性」を軸に、統計・計測データの現場活用、地域の中小企業で NP の取組が進みにくい要因とその解決に向けた規格化・標準化、行政によるビジネスメリットの明示など、幅広いトピックについて議論された。水枯渇の影響で水田造成が難しくなり、原材料供給が滞る懸念など、自然損失に伴うサプライチェーンの供給・事業継続リスクへの認識も共有された。

また、NP の取組を検討し始めている企業の担当者の参加も一定程度あり、情報収集や他団体の事例紹介への関心が高かった。約 10 分の延長により意見交換の密度が高まり、連絡先交換や情報共有が進展し、前向きな連携の検討につながった。今後は、異なる業種・事業分野の参加者が課題やニーズを積極的に共有し、より実効性のある連携・協働の形を模索していくことも含めて検討する。

以上